

食物アレルギー検査の実際

食物アレルギーを心配して外来を訪れる患者さんは、近年増加傾向にあります。日本における食物アレルギーの有病率は乳児期に10%、幼児期で5%、学童期で2%程度と報告されています。

食物アレルギーを実際に調べる検査としては、血液検査・皮内テスト・プリックテスト・経口負荷試験・除去試験など様々のものがありますが、当クリニックでは主に皮内テスト・プリックテストで判定を行っています。これらの検査のメリットは、子供に採血をする負担がなく経過観察が必要でも頻回に施行することができます。検査から判定までの時間が30分程度と速い、ほぼすべての食物を検査することができます。また皮内テストのためお母さん自身も自分の目で確かめることができます。デメリットとしては、即時型アレルギーの判定には有効ですが、遅発型アレルギーの判定には無効です。ただ食物アレルギーに遅発型アレルギーが占める割合は0.23%と報告されているので、非常に稀であるということです。また皮内テストでアナフィラキシーショックになる危険性も、あるとのことですが、これも報告によると非常に稀とのこと、当クリニックでも1例の経験もありません。

食物アレルギー検査の対象となる場合。

- 1)皮膚症状:食物アレルギーのほぼ90%、蕁麻疹・湿疹・アトピー性皮膚炎。
- 2)呼吸器症状:25% 喘息、咽頭・喉頭狭窄感。
- 3)粘膜症状:23%唇の浮腫、目の痒み。
- 4)消化器症状:13%腹痛、嘔吐、吐気、下痢。
- 5)ショック症状:10% 2以上の臓器の症状ですが、これは血液検査が必要です。
- 6)両親、兄弟にアレルギー疾患があり、離乳食開始にあたって心配であれば。

当クリニックで常備しているテスト液

- 1)ハウスダスト
- 2)ダニ
- 3)卵白
- 4)卵黄
- 5)ミルク、牛乳
- 6)大豆
- 7)小麦
- 8)ピーナッツ
- 9)そば
- 10)米